

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年11月15日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.167】

民主党は田城議員と革マル派との関係の徹底解明を！

前号では、11月8日の衆議院予算委員会で自民党平沢勝栄議員の質問を検証し、JR東労組元会長の松崎明氏の運転手とは、JR内革マル派の中では、きわめて重い責任を持つ命懸けの任務であり、その役割を務めていた田城議員が革マル派との関係を疑われるのは当然であることを記載した。なお、松崎氏は「週刊現代裁判」の本人尋問(2009年1月26日)で、ハワイや沖縄に別荘を購入した理由として、以下の通り証言した(No.86参照)。

私は様々な党派から30年ぐらいにわたって、殺すということを含めた様々な襲撃のターゲットにされて、いろいろ宣伝をされていましたし、事実、私の友達、友人たち、労働運動のリーダーは、直接には国鉄改革をやったということの理由によって多くの人が殺されました、そして傷つけられました。そういう過程で、国鉄改革を受け入れたのは松崎で、これは日本の労働運動の裏切り者で、こいつを殺せと、こういう言わば新左翼系から様々な喧伝、宣伝が行われましたから、私は身の休まる場所と、それから日本にいることは大変に危険だと、そういうふうに思いましたので、私なりの生き方を考えた一つの結果です。

なお、JR東労組元中央執行委員の本間雄治氏(現JR労組委員長)は、同じく「週刊現代裁判」の証人尋問(2009年3月3日)で以下の通り証言している。

(被告代理人) その当時は、松崎さんが秘密の別荘というんですか、あるいは隠れ家というのか、こういったものを持つのは当然だと思っていたんでしょうか。(本間) 思っていました。(代理人) それはどういうことで、そのような認識だったんですか。(本間) やっぱり、革マル派としても、あるいは私たちにとっても、そういった指導者でしたので、いろんな党派から命を狙われるだとか、そういうことでもって、いろんなところに身を隠す場所があって当然だというふうに思っていました。

松崎氏の側近はJR内革マル派のそれなりの人物であるはずだ！

JR内革マル派のメンバーは、松崎氏を命懸けで守ろうとしたことは間違いない。なお、松崎氏が「私の友達、友人たち、労働運動のリーダーは、直接には国鉄改革をやったということの理由によって多くの人が殺されました」と述べているのは、中核派や革労協による革マル派活動家への内ゲバのことだ(No.16~24参照)。

JR総連・東労組は松崎氏を「育ての親」「重鎮」「卓越した洞察力と的確な判断」「余人を持って代え難い」「日本の労働運動にとっても必要な人物」など、異常なまでに褒め称えて尊崇している(No.74)。その松崎氏の側近となれば、JR内革マル派でも信用の置けるそれなりの人物が配置されるはずであり、田城議員は、その条件に適う人物だと考えられる。そうであれば、田城議員と革マル派との関係を疑わざるを得ないのは当然だ。平沢議員はこの問題について「やっぱり公党ですから、私は説明責任があると思います。関係が全く無くなっているのなら無くなっているでいいんです。やっぱり疑いは持たれますよ。側近中の側近だったんですから」と質しているが、まさにその通りである。本情報で検証してきた通り、数々の状況証拠からみて、JR総連・東労組、そして田城議員と革マル派との関係についての疑惑は真っ黒である。JR総連・東労組がまったく説明責任を果たそうとしない以上、政府には、この問題の徹底した解明と検証を求めたい。